



第2回総会および研修会開催！

2011年2月11日、1周年を迎えたスペイン日本語教師会は国際交流基金マドリッド文化センターにて第2回総会および研修会を行った。

当日の参加者はスペイン全国と日本から集まった計58名。在スペイン日本大使館の関係者も迎えての開催となった。

総会では国際交流基金マドリッド文化センターの上野宏之所長代理とスペイン日本語教師会の鈴木裕子会長からの挨拶に続き、日本大使館の前東謙志文化担当書記官からお言葉を頂いた。スペインでは過去10年で日本語学習者が約5倍に増えたのであるが、日本語の普及はつまり日本文化の普及であることから、今後も

この傾向が継続されるよう、地方・地域間の協力体制の構築に働きかけて行く方針が述べられた。

続いて、鈴木会長から初年度の活動と今後の予定について報告があった。昨年は3月に「日本語多読」ワークショップ、6月に第1回スペイン日本語教師会シンポジウム、そして10月に「新日本語能力試験」研修会が行われた。シンポジウムは隔年で行われるため、今年の開催はないが、4月に漫画・アニメで日本語を学ぶワークショップ、6月に文字教育に関するセミナー、そして10月にも研修会が予定されている（テーマは未定）。



会計の益子夏実からは初年度の会計報告がされた（4ページ参照）。また、年会費が滞納された場合について「二年間年会費未納の場合は退会とみなす」という記述を細則の形で追加することが満場一致で採用された。そして今年度の研修会等の参加費について、APJE会員はいずれも無料、非会員の場合、

6月のセミナーは15ユーロ、その他の研修会は5ユーロとすることが決定された。

書記の藤野華子からはホームページや今までの出版物について報告があった。現在ホームページは一部スペイン語でも表示されるようになり、求人情報を含め、日本語教育関係のいろいろな情報が掲載さ



スペイン日本語教師会ホームページ
日本語関係のニュース、教師会フォーラム、教師の知恵袋など役に立つ情報が満載！

<http://apje.es/> E-mail: apje.info@gmail.com



東日本大震災のお見舞い

スペイン日本語教師会は東日本大震災における犠牲者のご冥福と被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

日本に向けた千羽鶴



東日本大震災を受けてスペイン各地では日本の被災者に連帯の意を表すイベントが開催されています。マドリードでは3月26日、市民が集まって千羽鶴を作り、被災者にメッセージを送るイベントがマドリード市とカサ・アジアの主催、JFマドリード文化センターの後援により行われました。鶴を折り方を説明するボランティアにはAPJE会員も多く参加し、7時間半に渡るイベントの最後には見事な千羽鶴が出来上がり、スペイン赤十字には約3千ユーロの募金が寄せられました。また、桃の鉢植えのまわりに結びつけられたメッセージには参加者それぞれの熱い思いが込められ、マドリード市民の日本に対する親愛の気持ちがしみじみと感じられました。

ありがとうございました！

今回、川口先生から寛大なご寄付、中川先生からは著書「初級文型のできるにほんご発音アクティビティ」（アスク出版）と「さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音練習帳」（ひつじ書房）を3冊ずつご寄贈いただきました。先生方、どうもありがとうございました！

録音データご提供について

今回の基調講演と2つのワークショップは発表者のご承諾を得て録音されました。データをご希望の方はapje.info@gmail.comまでお申し出下さい。

れている。また、昨年は2本のニュースレターと第1回シンポジウムの論文集が発行されたが、いずれも「アーカイブ」からダウンロードすることができる。今後も内容の充実を図り、より役立つ情報を提供して行く方針だ。

総会に続いては、マドリードとバルセロナの日本語能力試験協力委員会から、昨年12月の実施状況についての報告があった。2010年度は新試験になったこともあって、受験者数が昨年を下回る結果となった。来年からはセビージャ大学も試験会場に加わる予定で、今後、受験者の更なる分散化が予想される。

研修会では早稲田大学の川口義一教授に「初級を教える」をテーマとした基調講演を頂いた。そして、午後の部では早稲田大学日本語教育研究センターの中川千恵子先生による「音声を教える」ワークショップと国際交流基金マドリード文化センターの熊野七絵日本語上級専門家による「初級教科書分析」ワークショップが行われた。

今回、お昼休みには川口先生によるミニコンサートが行われた。とても珍しい笛とのこぎりの演奏で、観客はしばし不思議な音色に魅了された。

(藤野華子)



基調講演

初級を教える：初級文法教育の活性化—『文脈化』と『個人化』による表現指導

川口義一先生

「『文脈化』と『個人化』による表現指導」というテーマで、学習者が、初級であっても、自分が考えていることを表現できるように指導す

ることの大切さ、またそのために、「文脈化」と「個人化」というコンセプトが提示された。



「文脈化」とはどのような場面で言っていることなのか、つまり、「誰が、誰に、何のために」表現しているのかを明確にすることであり、「個人化」とは学習者に自分について語らせることである。

この両者を念頭においた教室活動例を通して、使用教科書の文型例文、練習問題などが「文脈化」されているか検討し、「文脈化」されていない部分を削除、変更し、教師が「文脈化」を行った上で、「個人化」された質問や作文などにより、学習者が自分について語れるよう指導、支援していくという教師の役割が言及された。

活動実例として、「チャンピオンのスピーチ」が挙げられた。これは、作文の最高得点者が「チャンピオン」として、スピーチするという対等の間柄で敬語が使える場(=『公の場』)を教室内に作って「文脈化」を行い、学習者間で「個人化」情報交換を促す活動である。週を追うごとに、スピーチや質疑応答がレベルアップし、盛り上がる教室の様子がいきいきと伝わってきた。

感想

数十年の現場での経験と研究に基づいた豊富な指導例を拝聴できる貴重な機会だった。「文脈化」「個人化」を行うためには、教師の的確な判断が必要であること、学習者が主体的に学習できるように適切な素地

を提供した上で、教師の介入は少なくすることなど、教師として、念頭に置いておくべきことがたくさんあった。

(馬場加恵、大石恵)

ワークショップ

音声を教える

中川千恵子先生

スペイン語圏の日本語学習者にとって、日本語の発音は同じ5母音だから、比較的発音しやすいので、私たち教師もあまり音声を教えると言う事について深く考えていなかったのではないのでしょうか。

しかし、中川先生のワークショップにより、日本語の発音、特にイントネーションは、外国人にとっていかに困難であるかということ、又私



たちネイティブにとっても自分のアクセント、イントネーションに自信がないということ、実際にテストを行って確認しました。

そこで、どのように発音指導をしていいのかわからないと言うのが殆どの先生方の悩みでしたが、中川先生の簡潔な指導方法、区切りを入れ

ながら「へ」の字型イントネーションにするだけで、大分聞きやすくなるということを知りました。

どんな語学を学ぶにあたって、聞きにくいと伝わらない、印象が変わるので、音声を教える事の大切さ、また伝え合うことは楽しいと意識して学習する事の大切さを教えていただきました。

(大和田道子)

ワークショップ

初級教科書分析

熊野七絵先生

スペインでは簡単に教材が手に入るという状況にはなく、またスペインで使用するにあたって、これといった教材を見つけることは難しいと言えます。そこで、いろいろな初級教材を比較し、それぞれの教材の更なる有効活用を目標に、熊野先生よりワークショップが開催されました。

一度にたくさんの教材を知り、様々な意見を聴くよい機会を得られ、よりよい授業を目指すためにも、これからの教材研究の必要性を実感することができました。

朝早くからの総会、研修会にも関わらず、最後まで賑やかに話し合いが行われ、グループに分かれての意見交換は、会員同士、多くの方と知り合いになれるチャンスにも繋がったのではないのでしょうか。

熊野先生の性格が反映された和や

かな雰囲気のもと、あっという間の1時間半でした。これからの皆様の授業にきっと活かされることと思います。

(江崎美保子)



広がるAPJE会員！(2011.03現在)

2011年3月現在、APJE会員は、一般会員が79名、学生会員が10名で、合計89名になりました。

REGIÓN	人数
Andalucía	5
Aragón	1
Castilla- La Mancha	1
Castilla y León	11
Cataluña	7
Galicia	5
Islas Baleares	2
C. Madrid	38
Murcia	2
Navarra	2
País Vasco	1
C. Valenciana	4
Extranjero (JP, FR, DE, SE, KE)	10
TOTAL	89

編集後記

スペイン日本語教師会が立ち上がって1年。あっという間だったような、始まったのが遙か昔のような…。ただこの1年間でたくさんの先生と知り合い、日本語教育について語り合い、いろいろなことを学んだ実感がとても嬉しく感じられる。変わりゆく日本語、世界の情勢、そして日本語学習者。APJEというネットワークがこれからもっと、そんな「今」をしっかり生きられるように頑張りたい。

(藤野華子)



お礼

今回ニュースレターの執筆に協力して下さった馬場加恵さん、大石恵さん、大和田道子さん、江崎美保子さん、総会・研修会で写真係を引き受けてくれたHugo Lázaroさん、写真を提供してくれたDaniel Sañudoさん、その他の皆さんに厚くお礼を申し上げます。

2010年度スペイン日本語教師会会計報告

<u>収入の部 (一般)</u>		
年会費	1.315,00 €	(一般20€×62名・学生15€×5名)
シンポジウム	1.775,00 €	(詳細別紙)
能験研修会会費	70,00 €	(5€×14名)
計	3.160,00 €	
<u>支出の部 (一般)</u>		
ホームページ・ドメイン取得等	40,60 €	
法人化手続き・社会保険庁等	41,86 €	
教師会定款翻訳謝礼	45,00 €	
講師接待費	73,75 €	
会議費	5,20 €	
シンポジウム	1987,96 €	(詳細別紙)
事務費 (文房具・コピー代)	20,61 €	
交通費(AVE Madrid-Barcelona)	382,00 €	(会長・書記Barcelona出張)
能験研修会お茶代	35,48 €	
銀行口座維持費	26,85 €	
計	2.659,31 €	
収入－支出＝ 3.160,00€－2.659,31€＝<u>500,69€</u> 2010年12月31日現在		

(別添) シンポジウム会計報告

<u>収入の部</u>		
会費	1.125,00 €	(一般30€×35名・学生15€×5名)
懇親会会費	650,00 €	(25€×26名)
計	1.775,00 €	
<u>支出の部</u>		
資料代	283,26 €	(コピー・ポスター)
飲食費	1.391,00 €	(懇親会750€・軽食コーヒー641€)
講師お土産	32,00 €	
講師謝礼	100,00 €	
パネリスト宿泊補助	100,00 €	
学生補助員謝礼	80,00 €	
駐車料金	1,70 €	
計	1.987,96 €	
収入－支出＝ 1.775,00€－1.987,96€＝<u>－212,96€</u>		